

目次

1. 教職課程ニュースレター第6号に寄せて
2. 教職フォーラムのご案内
3. 教職課程教育センター運営委員便り
4. 本学の教職課程について
5. 教員採用試験合格状況
6. 卒業生教員の声
7. 平成30年度教員免許状更新講習実施報告
8. 平成30年度教育実習について・教育実習生数
9. 教職研究紀要投稿のご案内
10. Web ページのご案内

1. 教職課程ニュースレター第6号に寄せて

教職課程教育センター長 柴原 弘志



卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

平成29年3月に告示された新学習指導要領におきましては、「何を学ぶか」という学習内容と「どのように学ぶか」という学習方法の両方を重視し、「主体的・対話的で深い学び」となるよう児童生徒の学びの過程を質的に高めようとするものとなっています。また、そこで育もうとする資質・能力を社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の重視が謳われており、カリキュラム・マネジメントによる実効性のある教育活動の推進が求められています。

そうした状況のもと、教職課程で共通的に身に付けるべき最低限の学修内容について検討することを目的とする「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会」の下に「教職課程の目標設定に関するワーキンググループ」が設置され、教職課程の各科目に含めることが必要な事項として、その全体目標、一般目標、到達目標等が示されました。本学におきましても、教職課程において必要な改善を進めてまいったところで、

今後は、そうした新たな教職課程で学んだ学生の多くが、「教育実習」あるいは「教職実践演習」として、卒業生諸氏が勤務されている学校等においてもお世話になることと思います。大学の中だけでは十分に行うことのできない児童生徒や教師の真の姿、あるいは教育上の課題等について実感を伴った深い学びが得られることを心より期待するところです。

教職課程教育センターといたしましても、卒業生の皆様方と本学教職員・在学生の交流をより推進してまいりたいと考えています。卒業生の皆様方には、今後ともより一層のご支援ご協力賜りますことをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

2. 教職フォーラムのご案内 ～在学生と卒業生との座談会開催～

教職課程教育センターでは、学校教育の現状をテーマに「教職フォーラム」を以下の通り実施いたします。

昨年度は講演および卒業生からの報告に加え、全国で教員として活躍しておられる26名の卒業生の皆様と在学生の座談会を開催し、学校教育の未来について語り合いました。在學生は現職教員の生の声を聞くことで、学校現場の実態や苦勞、やりがいを知り、教職を目指す志を更に高めることができました。一方、卒業生からは、「講演に沢山の気づきがあり貴重な機会になった」「座談会では自身を振り返る良い機会になった」「また参加させていただきたい」というご意見を数多くいただきました。

今年度は、京都弁護士会の小槻氏から弁護士の目線で学校問題解決について講演いただきます。また、卒業生の報告や、好評であった座談会を今年度も開催予定です。ぜひご参加のうえ、日々の業務の一助としていただくとともに、卒業生同志の情報交換の場としてもご活用いただき、皆様から教員を目指す在學生へアドバイスをいただければ幸いに存じます。

1. 日時 平成30年10月27日(土)13:25～16:30
2. 場所 本学12号館5階12502教室
3. 開催規模 約260名
4. 内容

①講演 テーマ「学校問題解決のために」

(講演者：小槻 浩史／京都弁護士会 弁護士)

②卒業生からの学校現場の状況報告

(報告者：岡棟 康太／神戸市立井吹台中学校 教諭)

③座談会

5. 申込方法

10月11日(木)までに必要

事項を記入のうえ、以下メー

ルアドレスへお申込みください。

▽必要事項：①氏名 ②卒業学部 ③勤務先・担当校種・
教科 ④電話番号 ⑤メールアドレス

▽メールアドレス：

kyoushoku-center@star.kyoto-su.ac.jp



3. 教職課程教育センター運営委員便り

現代社会学部 廣瀬 勝弘 教授



平素より、本学の教職課程に対して、ご支援ご協力を賜りまして、ありがとうございます。現代社会学部運営委員の廣瀬勝弘と申します。

現代社会学部は、平成29年度に新設されました。現代社会学科と健康スポーツ社会学科の2学科で構成されており、現代社会学科では中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（公民）、健康スポーツ社会学科では中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得が可能となっています。今後、学年進行と共に、学生たちが教育実習に出向くことになる予定です。私は、健康スポーツ社会学科に所属し、主に教職科目・保健体育科教育法、専門体育実技（器械運動）などの授業を担当、学生らに教科体育の授業づくりに必要な要件について講義・演習を行っています。具体的には、次の3つの目指

す教師像「運動ができる喜びを伝えられる教師」「保健体育の授業について〈確かな準備〉を行い〈安全〉に実施ができる教師」「生徒に尊敬される人間力を備え持つ教師」の実現に向け、授業内容の構成を進めているところです。

また、平成30年度からは、教員免許状更新講習を担当させていただき、現職の先生方と共に研鑽の機会を得ています。担当科目である「幼児期からの児童期における運動遊び」「学校体育におけるタグラグビーの指導法」では、実技演習を含みながら、動きやゲームの質を高めるための観察評価の視点提示などを行っています。現職の先生方の声を聞く貴重な機会であるため、今後も継続して講習担当ができればと考えています。



最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご活躍を願っております。

4. 本学の教職課程について

本学は、平成31年度に経営学部の改組、生命科学部を新設します。これに伴い、当該学部学科の教職課程認定を申請中です。また、教育職員免許法及び同施行規則の改正による平成31年度新教職課程の開始に伴い、既存学部学科の再課程認定を申請しています。両申請が認可されれば、平成31年度入学生は、右表の教員免許状が本学で取得可能となります。

※1 ドイツ語・フランス語・中国語の教員免許状は、当該言語を専攻している場合に限りです。

※2 平成30年9月21日現在、(通常)課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

※3 平成30年9月21日現在、(再)課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

【本学で取得できる教員免許状の種類・教科】 (平成31年度入学生)

学部	学科	中学校教諭一種免	高等学校教諭一種免
経済※3	経済	社会	地理歴史・公民・商業
経営※2	マネジメント	—	商業
法※3	法律	社会	公民
	法政策	社会	公民
現代社会※3	現代社会	社会	公民
	健康スポーツ社会	保健体育	保健体育
外国語※3	英語	英語	英語
	ヨーロッパ言語※1	英語・ドイツ語・フランス語	英語・ドイツ語・フランス語
	アジア言語※1	英語・中国語	英語・中国語
文化※3	京都文化	社会	地理歴史
	国際文化	英語	英語
理※3	数理科	数学	数学・情報
	物理科	数学・理科	数学・理科
	宇宙物理・気象	理科	理科
生命科※2	先端生命科	理科	理科
	産業生命科	理科	理科

5. 教員採用試験合格状況

過去3年間の教員採用試験合格状況は次のとおりです。

区分	年度	2015(平成27)	2016(平成28)	2017(平成29)
既卒	公立学校正規教員	30	26	52
	公立学校正規教員 ()は公立学校受験者数	6 (51)	10 (71)	7 (65)
現役	公立学校期限付き教員	22	19	19
	私立学校教員(正規、期限付きを含む)	8	11	6
合計		66	66	84

※現役生には科目等履修生・大学院生を含む



6. 卒業生教員の声

掛川市立西中学校 齋藤 一真 教諭



私は地元の静岡県で中学校の教師になって4年目になります。今は2回目の2年生の担任、社会の授業を5クラス、生徒会担当、野球部の顧問をしています。現在は2校目ですが、最初に母校の中学校から自分自身の教師人生をスタートし、現在も充実した毎日を送っています。

この仕事のやりがいは、生徒たちのために行動をしたことは、必ずいつか返ってくるということです。生徒たちのために担任として、部活顧問として何ができるのか。それを考え、試行錯誤する日々です。上手くいくことはまだまだ少ないですが、生徒の成長を一番近くでみることのできる、それがこの仕事の醍醐味だと思います。

そして、人との出会いを大切にしてください。自分自身が教師になろうと思ったのも素敵な出会いがあったからでした。人との出会いを大切にしていれば必ず周りの人たちが助けてくれます。ぜひ、出会いを大切にしてください。

最後に、夢を叶えるために全力で今を大切にしてください。これから教師を目指す学生の方々には、今、学生のうちでしかできないことがたくさんあると思います。時間を大切にしながら、勉強、部活動、サークル活動、アルバイト、ボランティア、旅行など、たくさんすることに挑戦をして、成長のチャンスにしてください。たくさんの経験は必ず教師としての魅力になるはずです。全力で頑張ってください。



大津市立青山中学校 谷本 有希 教諭



平成30年3月に外国語学部国際関係学科を卒業し、4月から滋賀県の公立中学校で勤務しています。中学校1年生の担任で、4クラスの英語を担当しています。部活動はバドミントン部を担当しています。生徒自身が、練習内容の目的や仲間と協力する大切さに気づくためにはどうすれば良いかを、顧問の先生方のお力を借りながら考えています。中高大と経験していたバドミントンですが、指導の立場に立つという責任の大きさを感じています。

まだまだ未熟ですが、生徒から「そういうことか！なるほど！」という声を聞いた時には、何とも言い難い嬉しさがありません。日々の何気ない出来事を教えてくれる事も私の原動力になっています。授業づくりや学級経営で最も重要な点は、「生徒が卒業する時にどんな姿になってほしいか、どんな力を付けてほしいかを考えること」と、同僚の先生から教えていただきました。これは私自身の課題であると共に、教育実習や教員採用試験を控えている皆さんにもこの点を大切にしてもらいたいと思います。

大学生のうちに、出来るだけ多くの子ども達と関わることも大切ではないでしょうか。どの様な声掛けをしたら良いのか、引き出しを増やすことは必ず役に立つと思います。

教職に携わるということは、大変な部分もあります。しかし、生徒が成長していく姿を身近に感じ、彼らの笑顔から沢山のエネルギーを貰えます。夢の実現に向けて目的意識を持ち、共に精進しましょう。

7. 平成30年度教員免許状更新講習実施報告

教職課程認定を受けている大学としての社会的責任を果たすため、平成30年度も教育と研究の蓄積を活かした教員免許状更新講習を実施いたしました。次年度も教員免許状更新講習を開講する予定です。ぜひご活用ください。

<実施期間：平成30年7月25日（水）～平成30年8月8日（水）>

開講講座	参加人数	開講講座	参加人数
【必修】教育の最新事情	110	【選択】法学のエッセンス	7
【選択必修】『特別の教科 道徳』における授業づくりと評価（「評価」演習含む）	65	【選択】脳科学や動機づけ理論を参考にした学びを活性化させる英語指導	27
【選択必修】「先手の生徒指導」個々と組織の対応について	31	【選択】幼児期から児童期における運動遊び	20
【選択必修】「学校内の組織運営」～組織の目標設定と意欲に着目して～	20	【選択】生徒に興味を持たせる授業研究	54
		【選択】学校体育におけるタグラグビーの指導法	18
【選択】小中高を通した算数・数学における、主体的、対話的で深い学びを考える～講義、ディスカッション、演習～	41	【選択】経済学の世界	11
参加人数合計 391人 ※延べ人数			

8. 平成30年度教育実習について

経済学部経済学科

大廣 誠



私は、社会人の硬式野球チームに所属しながら、ボランティア団体や小学校のスクールサポーターで活動を行ってきました。4年間勉学に野球にボランティアに情熱を注ぎました。

これらの経験を活かし、教育実習では生徒達に何か残すことができるように努めてきました。授業では2年生の社会科を、部活動では野球部を担当しました。この3週間を通じて感じたことがあります。

それは、「授業は生徒と作っていくものであること」です。一見すると、教師が作ってきた授業を生徒に教授していくものと思われがちですが実際は違います。授業を行い感じたことは、教師一人では授業は成り立たず、生徒のアクションや様子等から次に話す内容も変わってきます。授業経験のない私にとっては進行していただくで精一杯でした。そんな中、担当教官の先生に「生徒と対話する感じで授業してみたらどうか」と声掛けを頂き、そこから自然に授業の形が変化するように思えます。昨今では「主体的・対話的で深い学び」が授業の中に組み込まれていることが大切になってきています。生徒と話す形にしてから少しではありますが、生徒も楽しそうな顔をして授業を受けてくれていました。授業は一方的に話すものではないと身をもって感じる事ができ、その後は生徒と本当に楽しく授業ができたと思っています。

教師になっていく中で児童生徒と触れ合いながら授業ができるように今後も努めようと思います。

○平成30年度教育実習生数

学部	教育実習生数 ()は昨年度数
経済	12 (15)
経営	10 (16)
法	17 (16)
外国語	19 (18)
文化	6 (19)
理	29 (27)
コンピュータ理工	2 (3)
総合生命科	10 (10)
合計	105 (124)

※科目等履修生を含む

9. 教職研究紀要投稿のご案内

教職課程教育センターでは、学術の振興に寄与することを目的とし、毎年3月に『京都産業大学教職研究紀要』を刊行しております。

本学をご卒業された現職教員または教育関係にお勤めの皆様もご投稿いただくことが可能です。皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

<投稿要領>

1. 投稿種別 実践記録
2. 原稿量 400字詰め原稿用紙50枚以内
3. 投稿内容

(1)原則、教職課程における教職および教科に関するもの
(2)未発表のもの
(3)図版や統計資料を掲載する場合は、指定の原稿枚数に含めること

4. 投稿方法

原則、Wordで作成し、記録媒体(CD-R等)を添えて、当該年度の11月末までに教職課程教育センターまで提出してください。(原稿には、邦文および英文のタイトルと要旨を添付すること。)

5. 特記事項

- (1)本論集に掲載された実践記録の著作権は、京都産業大学に帰属する
- (2)投稿には個人情報保護法および人権上の問題が生じないよう配慮のこと

※研究紀要のバックナンバーについては、本学の「学術リポジトリ」にて閲覧可能です。

<https://ksu.repo.nii.ac.jp/>

10. Webページのご案内

教育分野でご活躍されている卒業生の皆様対象のWebページを開設しております。ぜひともご活用ください。

<https://www.kyoto-su.ac.jp/faculty/kyoshoku/index.html>

(主な発信内容)

・イベント情報 ・証明書の申請方法 ・教員免許状更新講習の案内 ・教職ネットワーク登録について ・教職研究紀要の投稿案内 等

<発行>

京都産業大学教職課程 News Letter 第6号

発行日：平成30(2018)年9月21日

編集発行：京都産業大学 教職課程教育センター

<お問い合わせ先>

京都産業大学 教職課程教育センター

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

TEL:075-705-1479 / FAX:075-705-1448

E-mail : kyoshoku-center@star.kyoto-su.ac.jp